

第59期 株主通信

2020年4月1日～2021年3月31日



おいしいものを手軽に
提供できる技術を世界中に

RHEON[®]

レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード 6272



レオンの持続的成長に向けて、 新たな経営体制をスタートさせました。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症により影響を受けている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、医療従事者の方々をはじめ、感染拡大防止に取り組んでおられる皆様に心より感謝申し上げます。

2021年2月12日開催の取締役会決議を経て、4月1日より、小林幹央（前取締役専務執行役員）が代表取締役社長に、田代康憲（前代表取締役社長）が取締役会長に、それぞれ就任いたしました。

新たな経営体制の下、引き続き世界中の食のニーズにお応えし、食文化の発展に貢献するとともに、経営基盤の強化と企業価値の向上に努めてまいります。

取締役会長（左）

代表取締役社長（右）

田代康憲

小林幹央

社長インタビュー

Q 社長の経歴をお聞かせください。

A 機械の用途拡大の研究、
食品の製造販売に長年携わってきました。

1977年に当社入社、2011年まで技術サービス部に所属し、主に当社機の用途拡大研究に携わってきました。主力機種である包あん機は和菓子の生産機械というイメージがあるかと思いますが、本体の基本仕様はそのままに、ちょっと部品を変えたり、使い方を工夫するなどの研究により汎用性が広がり、和菓子のみならず、洋菓子やハンバーグなどの調理食品に至るまで、様々な製品の生産が可能になりました。包あん機をはじめ当社の機械は、現在126の国と地域でそれぞれの国や地域に根差した伝統食品やお客様の幅広いニーズに合わせてご愛用いただいています。それもハード・ソフトの両面から食品生産技術の研究を重ねてきたからであり、これが当社の強みでもあります。

2002年に技術サービス部長に就任、2011年以降は子会社である米国オレンジベーカーリーおよびホシノ天然酵母パン種の社長を務め、食品製造販売事業を担当してきました。2015年より当社取締役、

2018年より本社管理本部長を兼任し、本年4月、代表取締役社長に就任いたしました。

Q 当期（2021年3月期）の業績および概況をお聞かせください。

A お客様との対面が困難な状況が続き、
業務上多くの制約が課されました。

業績について申し上げますと、減収減益となりました。その最大の要因は、国内外ともコロナ禍により営業活動への制約を受けたことです。

まず、営業マンによる対面営業が困難でした。当社の販売スタイルの基本は、お客様の目の前で実機のテストをすることですが、感染防止の観点から来社いただくことができない状況が続くなど、満足な販売活動ができませんでした。特に本社での実機のテストおよび検証が必須ともいえる大型ラインの販売を伸ばすことができませんでした。また、メンテナンス事業においても、国内では健闘したものの、海外については欧米での移動が制限されたこともあり不振でした。

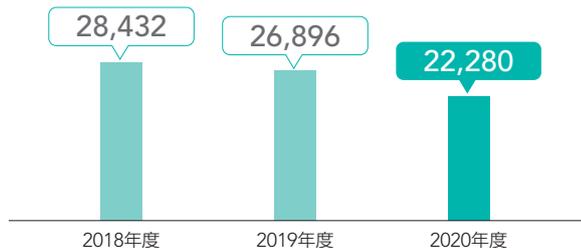
リモートによる対応も試みましたが、状況が好転するまでには至りませんでした。また、新規の顧客開拓の重要な場である展示会が各地で中止に追い込まれたことも、大きな痛手となりました。

一方で、健闘した分野や今後につながるであろう動きも見えました。大型ラインの販売は不振でした

が、中国における包あん機や欧米における製パン機など、小型の機械が健闘しました。また、コロナ禍に対応した業態、例えばテイクアウトやデリバリーの専門店などの新しい業態に、当社の機械が活躍する余地があるのではないかと考えています。

売上高の推移

(百万円)



Q 中期経営計画の進捗はいかがでしょう。

A 計画の一部見直しを検討しています。

生産(開発)体制の強化については、新たな設計手法に基づき開発した新機種「火星」[CN700]等の販売を開始し好評を得ています。

海外代理店の強化策についても、代理店教育をすることにより売上アップの成果が出始めています。

人材育成については、特に若手社員の成長を促進するために、様々な部署を経験させる、また積極的に重要なポジションに登用するといった方針にシフトしました。

業務環境整備では、SAP基幹システムの運用を昨年10月より開始しました。全社情報の一元化、業務効率化を進めており、基幹システムがもつ機能を最大限に発揮させ活用していくため継続して改善活動に取り組んでいます。

なお、コロナ禍により先行きが不透明であります。当期の減収減益を受けて現中期経営計画の一部見直しを検討しています。

Q 「とちぎSDGs推進企業登録制度」に登録されましたが、SDGsやESGに対するお考えをお聞かせください。

A 食品ロスの問題にはハード・ソフト両面から積極的に取り組んでいます。

企業の社会的責任、株主様への適正な利益還元の観点からもSDGs、ESGへの取り組みは当社の重要



課題です。

特に食品関連企業として、食品ロスの軽減を目指しています。食品ロスには大きく、「つくるまでのロス」と「できあがってからのロス」の2つがあります。前者については、機械を工夫することでロスの軽減を追求してきましたし、今後もその取り組みを継続してまいります。

また、後者については、オレンジベーカリーでの取り組みを紹介します。パンを焼き上げるまでにはかなり時間を要します。店舗では通常、販売チャンスを逃さないために予定数量よりも多めに焼き上げます。そのため、どうしても余ってしまい廃棄処分になります。オレンジベーカリーでは、焼き上がるまでの時間を短縮することでよりタイムリーなパンづくりを行い、作り過ぎによるロスを減らしております。

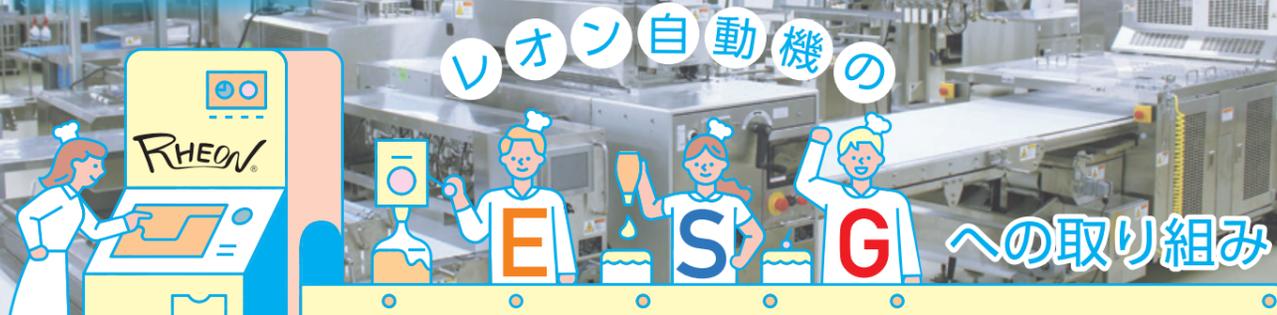
Q 株主様へのメッセージをお願いします。

A 食材を傷めずにおいしい食品を製造できる、最先端の自動化機械を常に開発していきます。

当事業の根幹は、食品加工機械を通じて、世界中の食文化に貢献することです。食品製造の現場では、前述した食品ロスの問題だけでなく、自動化への対応も大きな課題となっています。今後も最先端の自動化機械を提供できるよう、ハード・ソフトの両面から研究開発を推し進め、食品業界の皆様とともに、様々な課題の解決に取り組んでまいります。それが当社の成長の源泉であり、株主様の利益の向上に資すると考えております。

なお、当期末の配当金は、1株当たり10円とさせていただきます。これにより1株当たりの年間配当金は、中間配当金7円と合わせて17円となりました。

株主の皆様には、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



当社は、環境・社会・ガバナンス (ESG) 課題に積極的に取り組んでおり、「食文化とは人類の英知が生み出した地球の宝物」と考えております。そして、その食文化の発展に貢献し、食文化を守り続けることを「レオンスピリット」と呼んでおり、当社のESG課題への取り組みは、この精神が根幹にあります。これまで、これからも社会から必要とされる企業であり続けるために、企業としての社会的責任を果たし、食を通じて社会に貢献してまいります。



「とちぎSDGs推進企業登録制度」に登録

当社は、2021年1月に「とちぎSDGs推進企業登録制度」に登録されました。「とちぎSDGs推進企業登録制度」とは、栃木県内の企業等でのSDGs推進の機運を醸成するとともに、SDGs達成に向けた企業の主体的な取り組みを促進し、企業価値の向上と競争力の強化を図るために、2020年10月に創設されたものです。今後も「笑顔とおしさは地球をひとつの国にする」を信念に、参画企業や自治体との連携を取り、SDGs達成に貢献してまいります。

SDGs達成に向けた重点的な取り組み



販売機種への高効率
モーター搭載
100%

販売機種
のIoT化
目標 **50%**

女性管理職
の登用
+20%

全社での
CO₂排出量削減
-10%

E 環境
Environment

火星機®「CN700」販売開始

パフォーマンス向上で食品ロス削減にも貢献!

2020年10月より、火星機®「CN700」を販売開始しております。本機は、生産性・機能性が向上しており、食品ロスの削減などに貢献できるようになりました。

当社では引き続き、独自の技術力によって食の安心・安全を守るとともに、食品製造過程において発生する食品ロスの削減を目指し、すべての人に食が行き渡る社会の実現に貢献できる機械づくりに取り組んでまいります。

火星機®「CN700」の特徴

食品ロスの削減

- 計量精度を重視したことで重量安定性が高まり、良品精度が20%向上

労働環境の改善

- オプションを取り付けることで、団子などの小物製品は毎時最大5,100個の生産が可能
- 機械の安全カバーを大きくすることで、作業者のリスクを軽減
- 部品が従来比4キロ軽量化され、清掃時の負担を軽減
- IoT (通信機能) を搭載することで、生産サポートが可能

「レオン・ソリューションセンター」稼働開始

地球にやさしい企業を目指して

2020年11月より、新社屋「レオン・ソリューションセンター」が稼働を開始しております。こちらには、LED照明や自動消灯システムなどの最新省エネ設備を導入しており、CO₂排出量削減に貢献できる環境づくりをいたしました。

レオン・ソリューションセンター

S 社会
Social

新基幹システムと「レオン・ソリューションセンター」による業務改革

業務効率化とコミュニケーション活性化へ

社会においてデジタルトランスフォーメーション (DX) が重要視されている中、当社では「レオン基幹システムプロジェクト」の一環として新たな基幹システムを2020年10月より稼働いたしました。受注から出荷、売上までの一括システムによる管理業務のスマート化など、業務の効率化・迅速化が進んでおります。

また、新社屋「レオン・ソリューションセンター」では、直接部門・間接部門をワンフロアに集約することで、社内コミュニケーションの充実・円滑化が可能となりました。

今後は、より一層の業務効率化および社内コミュニケーションの活性化を目指すとともに、女性社員が能力を最大限発揮できる環境整備に取り組み、女性管理職の積極的な登用を目指してまいります。



社会

包あん技術が第70回栃木県発明展覧会にて「文部科学大臣賞」を受賞

高い技術力を地域の子どもたちに紹介

2020年10月、栃木県子ども総合科学館にて開催された「第70回栃木県発明展覧会」に出展し、当社の「包み食品製造装置*」が文部科学大臣賞を受賞いたしました。この展覧会は、県内企業や発明家の優れた発明考案品を一堂に展示し、その成果を広く普及させ、研究開発意欲と県内の科学技術水準の向上を図ることを目的としており、当社は、「包み食品製造装置」の発明に関わるパネル展示や動画上映を実施し、子どもたち楽しく学んでもらいました。

引き続き、高性能の機械づくりを目指すとともに、栃木県の企業として地域貢献活動に積極的に取り組んでまいります。

*「コンパクト FN」を代表とする包あんする食品製造機



高校生に知的財産権に関する講話と会社見学を実施

未来の技術者養成に貢献

文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の一環として、2020年11月に、栃木県立宇都宮工業高等学校の生徒に当社の知的財産権に対する取り組みの講話と、会社見学を実施いたしました。特許室による技術者に必要な知的財産権の申請や権利保護に関する講話とラボ等の見学を通して、食品加工機械に対する理解を深めてもらいました。今後も、学生への教育支援活動を通して未来の技術者養成に貢献してまいります。



G ガバナンス
Governance

リスク管理委員会の活動

社員個々の危機管理意識向上へ

自然災害や製品事故など、企業を取り巻くリスクは様々あり、社会環境の変化とともに増えております。

当社では、様々なリスクに対処するべく、役員を委員長とする「リスク管理委員会」を設置し、リスク管理の実施状況の確認を行うとともに、定期的にリスクの見直しを行っております。

今後も、当社の重点リスクを社員一人ひとりが意識するよう教育・啓発し、レオングループ全体でリスクマネジメントをしてまいります。



当期の重点リスク4項目

1. ハラスメントの撲滅
2. 情報漏洩の危機意識強化
3. コンプライアンス (法令遵守) の再認識
4. 新基幹システムへの移行

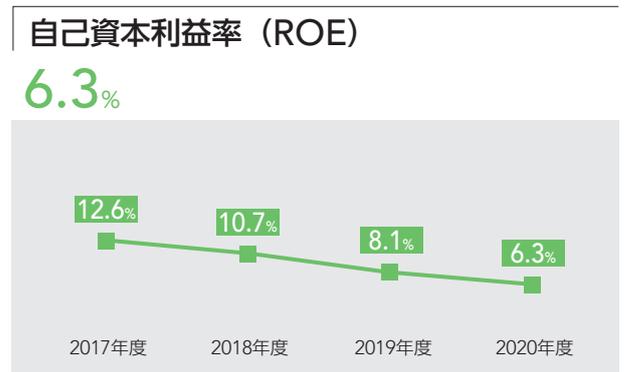
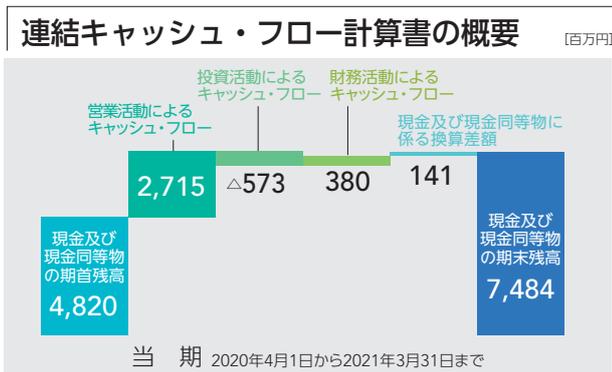
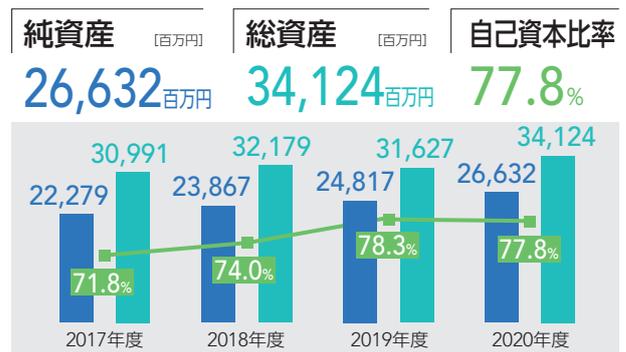
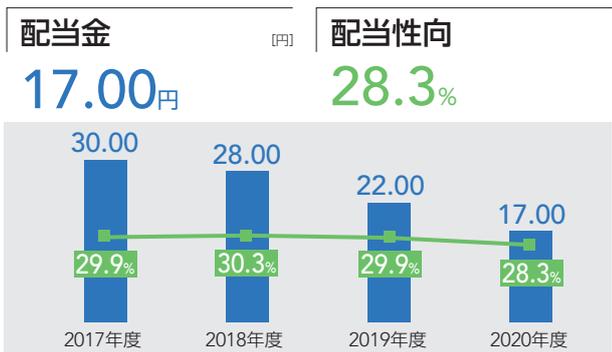
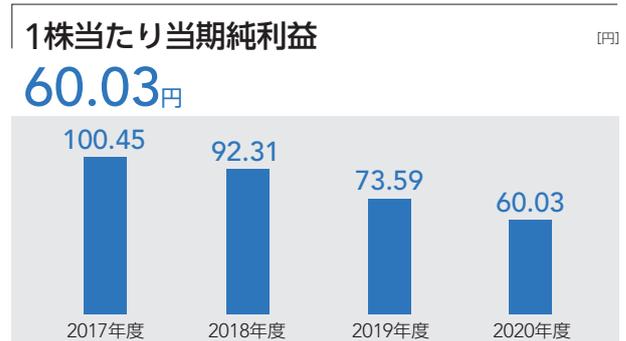
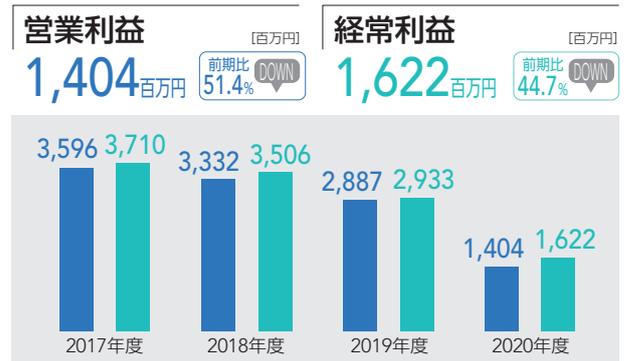
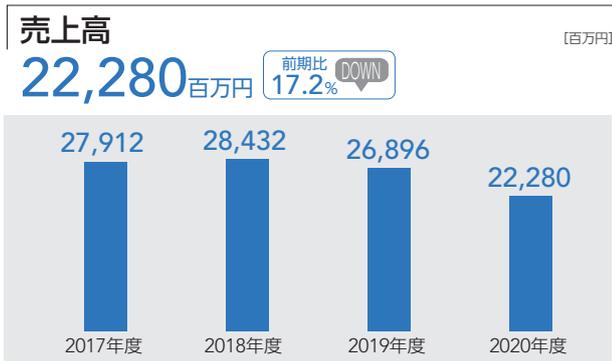
財務ハイライト

国内経済におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、企業収益の低下や消費支出の減少により、大きく落ち込みました。新たな変異株も発生しており、ワクチン接種による改善が期待されていますが、先行きは依然として不透明な状況が続いています。

海外経済におきましては、コロナ禍に伴う混乱や政策支援の規模が国や業種によってそれぞれ異なっており、経済回復に格差が生じています。中国では景気が回復傾向にある一方、欧州では依然として感染拡大の収束が見通せず厳しい状況です。

当社グループが市場とする食品業界は、巣ごもり消費の増加を受けて、スーパーマーケットなどの一部の小売業は好調でした。しかし、外食産業や観光土産業界では需要が大幅に減少した影響を受け、業界全体としては厳しい状況が続きました。

このような状況の下で、当連結会計年度における売上高は22,280百万円(前期比17.2%減)、営業利益は1,404百万円(前期比51.4%減)、経常利益は1,622百万円(前期比44.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は1,608百万円(前期比18.4%減)となりました。



セグメント別売上高および売上高の推移

食品加工機械製造販売事業

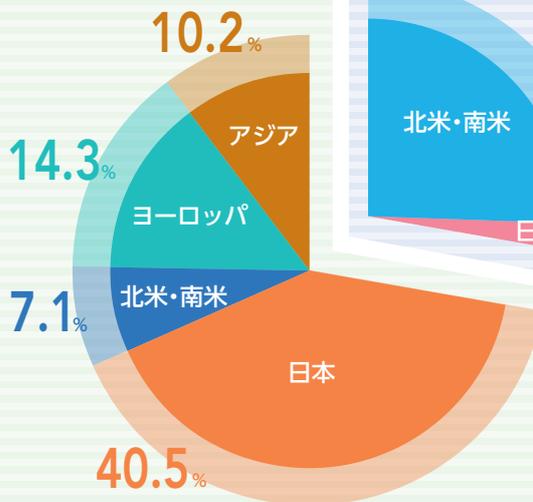
16,078百万円

前期比80.5%

構成比
72.1%

POINT!

- 日本では食品成形機や製パンラインなどの販売が減少
- ヨーロッパでは製パンラインの販売が増加
- アジアでは製パンラインなどの販売が大幅に減少



食品製造販売事業

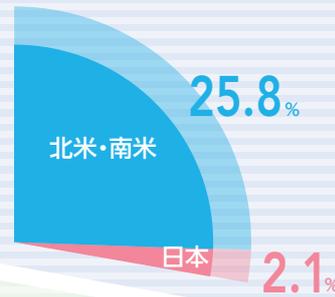
6,202百万円

前期比89.5%

構成比
27.9%

POINT!

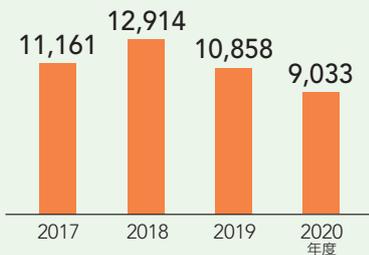
- アメリカのオレンジベーカリーで、レストランや大手食品卸業社向けの販売が大幅に減少



日本

[百万円]

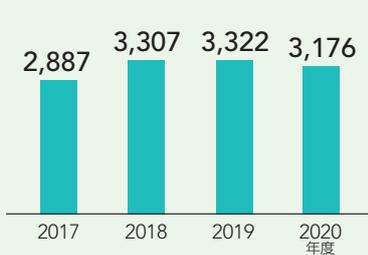
売上高 9,033百万円
セグメント利益 1,949百万円



ヨーロッパ

[百万円]

売上高 3,176百万円
セグメント利益 317百万円



日本

[百万円]

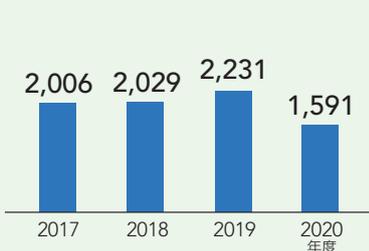
売上高 461百万円
セグメント利益 79百万円



北米・南米

[百万円]

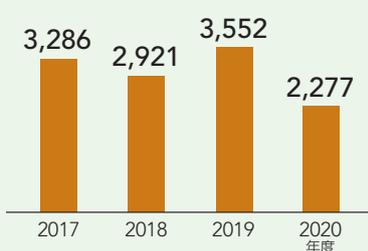
売上高 1,591百万円
セグメント利益 63百万円



アジア

[百万円]

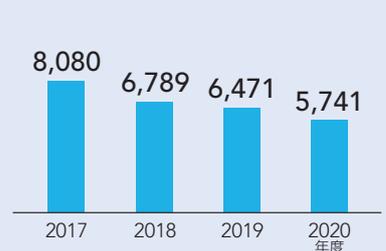
売上高 2,277百万円
セグメント利益 733百万円



北米・南米

[百万円]

売上高 5,741百万円
セグメント利益 103百万円



会社情報/株式情報

会社概要 (2021年3月31日現在)

商号 レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.
本社 栃木県宇都宮市野沢町2番地3
設立 1963(昭和38)年3月15日
資本金 7,351,750,000円
従業員 578名

(注) 従業員には契約社員、嘱託社員、パートタイマー・準社員、国内外出向者、台湾支店の現地社員が含まれておりません。

役員 (2021年6月28日現在)

取締役会長	田代康憲
代表取締役社長	小林幹央
取締役常務執行役員	金子保
取締役常務執行役員	大貫和茂
取締役	平原興
取締役	横山薫
常勤監査役	宮岡正
監査役	平林亮子
監査役	横山不二夫

(注) 1. 取締役平原興および取締役横山薫は、社外取締役であります。
2. 監査役平林亮子および監査役横山不二夫は、社外監査役であります。
3. 取締役平原興、取締役横山薫および監査役平林亮子、監査役横山不二夫は、東京証券取引所の定める独立役員であります。

事業所 (2021年4月1日現在)

上河内工場	宇都宮市中里町715番地1 (ISO9001認証取得)
東京営業所*	江東区新砂1丁目6番35号 イーストスクエア東京1階
札幌出張所	札幌市白石区南郷通20丁目北1番37号
仙台出張所	仙台市泉区八乙女3丁目12番地の1
名古屋営業所	名古屋市中区社台3丁目32番1号
大阪営業所	吹田市垂水町3丁目25番11号
岡山営業所	岡山市北区上中野2丁目12番18号
福岡営業所	福岡市博多区東那珂1丁目13番15号
台湾支店	台北市内湖区新湖一路118號5樓 台湾
上海駐在員事務所	中華人民共和国上海市長寧区虹橋路1438号 古北国際財富中心2期5階 503-30室

* 2020年9月7日に上記住所に移転しました。

関連会社 (2021年4月1日現在)

- レオンUSA (アメリカ)
- レオンヨーロッパ (ドイツ)
- 株式会社レオンアルミ (日本)
- オレンジベーカーリー (アメリカ)
- 有限会社ホシノ天然酵母パン種 (日本)

「つつむ」「レオンパレード」がデジタル化

季刊誌「つつむ」に続き、広報誌「レオンパレード」もデジタルブック化しております。ぜひご覧ください。

■ つつむ
<https://www.rheon.com/digital/tutumu/>

■ レオンパレード
<https://www.rheon.com/digital/rheonparade/>

※閲覧のみとし、SNS等への掲載はお控えください。



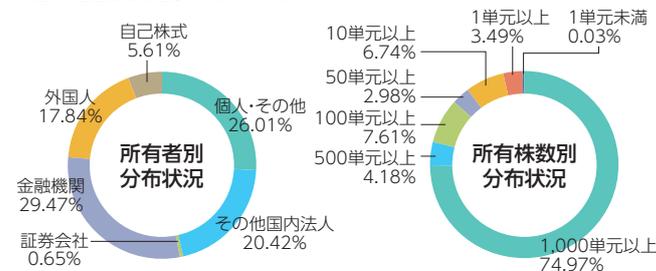
株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数	42,800,000株
発行済株式総数	28,392,000株
株主数	6,125名

大株主 (2021年3月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
公益財団法人レオロジー記念財団	3,030	11.3
ラム商事有限会社	1,703	6.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,654	6.2
レオン自動機取引先持株会	1,559	5.8
株式会社足利銀行	1,260	4.7
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,130	4.2
レオン自動機従業員持株会	756	2.8
JP MORGAN CHASE BANK 380684	683	2.5
株式会社栃木銀行	680	2.5
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C USL NON-TREATY	641	2.4

※ 自己株式1,593,686株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel. 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- ご注意
(1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
(2) 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
(3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
2. 配当金計算書について
配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取になれる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取になった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

■ 表紙の写真: バイエルンアルプス (ドイツ・バイエルン地方)

レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

〒320-0071 栃木県宇都宮市野沢町2番地3

TEL.028-665-1111

<https://www.rheon.com/>

